

総務企画委員会 県外所管事務調査の概要

◆調査日程 平成28年7月25日(月)～7月27日(水)

◆調査先・調査内容

①富山ライトレール株式会社(富山県富山市城川原)

調査内容: 富山市におけるライトレールの役割について

富山市は、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指し、そのリーディングプロジェクトとしてJR富山港線を富山ライトレールとして再生させた。

都市景観にマッチしたモダンな車両や利便性の向上により利用者は平日で2.1倍、休日は3.5倍と大幅に増加するとともに、高齢者を中心に市中心部への外出の機会が増え、高齢者が街中を出歩くことで健康に寄与。また、終電時間の延長(21:00→23:30)等により市街地の賑わいが創出されている。

その結果、中心市街地への民間投資も促進され、市中心部の居住者が増加することで固定資産税、都市計画税が増加するなど、様々な相乗効果が生まれている。

<主な質疑等>

- ・ライトレール整備に係るバス事業者、タクシー事業者等との調整について



②氷見市議会(富山県氷見市鞍川)

調査内容: ・クラウドファンディング(ふるさと納税)の取組について
・体育館をリノベーションした市役所新庁舎について

氷見市は、平成17年度から「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」を開催している。大会運営費(約2,500万円)の財源として地域活性化センターの助成金(400万円)を活用していたが、助成が打ち切られることになり、大会運営資金を確保するためふるさとチョイスを利用したクラウドファンディング(ふるさと納税)に取り組んだ結果、初年度から寄附目標額をほぼ達成し、全国大会の財源を確保している。

※目標額500万円 26年度実績は約497万円、27年度実績は約616万円

また、氷見市の新庁舎は、旧県立高校の体育館・校舎をリノベーションして整備されており、未利用の大型県有財産利活用の観点から整備状況を調査した。

<主な質疑等>

- ・「春の全国中学生ハンドボール大会」の実施に伴う域内の経済波及効果について
- ・ハンドボールを続けてきた氷見市の小中学生の体力測定の結果について



③石川県七尾美術館（石川県七尾市小丸山台）

調査内容：石川県七尾美術館の概要及び運営について

石川県七尾美術館は、七尾市出身者の遺族から美術品125点が寄贈されたことを契機に整備された。当館は、長谷川等伯生誕の地の美術館として等伯作品をメインとした作品展が定期的開催されるとともに、等伯の作品等を鑑賞できる大型ハイビジョン、講演会・コンサートが実施できるアートホール、市民の作品発表の場となる市民ギャラリーが整備されており、地域に根ざした美術館として、特色ある施設整備や美術展が開催されている。

当館の館長は、石川県立美術館長が非常勤として兼務しているため、県・市の一体的な連携のもと、作品展示や広報活動等はもとより地域の芸術文化の振興が図られている。運営面では、指定管理者である公益財団法人七尾美術財団が能登島ガラス美術館と併せて運営し、経費の節減やサービスの向上に努めている。

※質疑については、常設展を見学しながら各委員と学芸員とにより個別に行われた。なお、作品の中に本県出身福田平八郎画伯の鯉の絵が出品されていた。



④羽咋市役所（石川県羽咋市旭町）

調査内容：羽咋市神子原（みこはら）地区活性化の取組について

羽咋市神子原地区は、千石・神子原・菅池の3集落からなる中山間地域で、高齢化や地域住民の減少等により集落機能が失われつつあったため、市役所職員が先頭に立って様々な斬新な地域活性化策を展開した。都市住民との交流事業である空き農地・農家情報バンク制度の創設、棚田オーナー制度や烏帽子（よぼし）親農家制度を生かした農家民宿の実施、農家カフェのオープンなどは、単なる交流事業に止まることなく定住へと発展させた。

また、農家所得の向上のため、神子原米のブランド化に取り組み、ローマ教皇に米を献上することに成功したことで大きな話題となり、価格が約3倍に高騰。さらに農家自身の出資で株式会社神子の里を設立するなどの多面的な取り組みにより、高齢化率の減少や農家所得が向上するなど、地域の再生が図られている。

※市役所での調査に引き続き、直売所「神子の里」の現地調査を実施した。

<主な質疑等>

- ・神子原米が長期間にわたりブランド米として高値を維持している秘訣について

